

モスクワオリンピックの金メダルから学ぶ オリンピックの光と影



金メダル表面

1980年モスクワオリンピックでは、世界が2つに分かれて対立した「東西冷戦」時代、ソ連によるアフガニスタン侵攻を契機に、西側諸国50か国が大会をボイコットしました。スポーツと政治との関係が問われる中で、無念の涙を流した選手たちがいたのです。モスクワオリンピック開催国であるソ連（現在のロシア）は、当時合計80個のメダルを獲得しました。一国の代表選手が獲得したメダル数としては、過去2番目の多さでした。この輝かしいメダル獲得の裏には、戦争によるボイコットという悲しい背景があります。大会直前にボイコットを決めた日本には、このメダルは存在しません。オリンピックの「光」である輝かしいこの金メダルは、社会で見え隠れする「影」を映し出し、戦争の虚しさを私たちに語りかけています。



金メダル裏面

メダルデザイン豆知識

メダルの表には、開催国ロシアの文字であるキリル文字で「XXII МОСКВА 1980」と刻まれています。メダルのほぼ中心に大きく描かれている勝利の女神「ニケ」は、左手にヤシの葉、右手に勝者に授けられるオリーブの冠を掲げています。実は大手スポーツメーカ「NIKE（ナイキ）」は、この勝利の女神「ニケ」から名前をとりました。ニケの背後にある競技場は、イタリア・ローマのコロッセオです。裏面は大会オリジナルのデザインで、オリンピック聖火が燃え盛る背景に競技場のアリーナ、その右側上部にはモスクワ大会のエンブレムが描かれています。



金メダルはIOCから借用したレプリカです
シンボル展示に展示しています